

品川支部

令和二年九月1日発行

〒141-0022

品川区東五反田1-8-5

TEL 3442-7075

9月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

天理大ラグビー部で 新型コロナ感染

ニュースでご存知のようにラグビー部クラスター発生で多くの部員等が感染ということで、宗教法人と学校法人との違いは有れ少なからず教友にショックが走りました。少し前には日体大を初め複数の大学のサークル・部活等での話もあり、犯人捜しのような弱っている人にさらに追い打ちをかけるような風潮が見られます



怖いことはとても怖いのですが、引用させて頂きました左の「コロナ見附」を見て、本当に人と人を割くコロナの陰謀に、乗せられることなく物理的に離れていなければならぬ人との間を互い助け合う事、人助けでこの時期を乗り越えることを改めて考えさせられました。今こそ、お道の精神ですね。

*「コロナ見附」サイトから

☆支部行事のお知らせ

支部例会九月三十日(二頁参照)

*コロナ禍の状況により変わります

開催の有無は

二十一日以降に電話等でお確かめください

・神名流し

共に中止です

・在宅センターひのきしん

・幹事会 九月九日(六時から)

今回から桜京さんの会場になります

*近々の支部内お運び状況

・教会名および会長変更(九月二十六日付)

現 日倉分教会・斎藤衛彦会長

新 日徳實分教会・岡部喜徳

(日本橋大教会常勤役員へ)

・会長就任 呉武分教会

旧 故 大澤 廣二先生

新 大城 博乃会長

・神殿建築のお運び

都南分教会神殿建築に関する事項

十一月着工予定 再来年夏竣工の予定

☆教務支庁からのお知らせ

天理時報創刊九十周年記念出版で

中島みゆき第二詩集が十月一日発売になります

・青年会から募金の御礼

コロナ募金と称して皆さんにご協力いただきました募金は、総額九十二万四千円あつまりまして、とうきょううとがしゅさいする「守ろう東京・新型コロナ対策医療支援寄付」に送ることが出来ました。改めて皆様のご協力に感謝いたします。

・敬老の日、まもなく百歳の方紹介

豊英分教会の石塚豊三郎さん(三代会長の三男)は大正九年十月十四日生まれで、一生教会を支えてこられ今年の誕生日で百歳を迎え今月の敬老の日には区からのお祝いが届きます。

百歳あめとろ



八十歳からセンターで習字を初め五年前には一級の免状を頂きました。現在は朝夕のお勤めは皆勤、お手ぶり学びも月次祭もしっかりこなし、部屋では習字、数独、テレビで過ごされています

拠点教会	6日号 (8月30日合併号)	13日号	27日号
日本橋	郵送	郵送	郵送
本 荏	郵送	郵送	郵送
南 泰	郵送	郵送	郵送
三ツ木	郵送	郵送	郵送
水豊田	郵送	郵送	郵送

時報手配り九月予定

・当面の間、時報は月三回で四頁での発行になります
・手配りの実施は各地方の実情を見て再開を決定します

ひのきしんと私



七月二十五日より八月一日迄の八日間、四か月ぶりにおちばに帰らせて頂きました。詰所の防水工事ひのきしんの為で公用での帰参でした。

ご本部神殿での朝勤めは密にならないように、お互いの間隔を広くとって座り、マスク着用でさせて頂いたのですが、いつもと同じように心が洗われるような清々しい気持ちになりました。「喜ばせずには帰されん」という親神様の思召しが拝殿いっぱい満ち満ちているからなのでしょう。こうして一日が始まるのはとっても気持ちが良い、おちばは有難いなあと思うところです。

母親が三代会長に就任した時から、車に母を乗せ十二年、自分が会長になってからは私一人で十年、足掛け二十二年間毎月欠かさずおちば帰りさせて頂いていました。それが四か月も帰れない日が来るなんて、なんどきにかえりてきてもめへくの心あると、さらにおもうな (十一 七十八)

今までは親神様・教祖が呼んで下さるから毎月帰っていたのだと、改めて感じていました。私は九月二十六日で会長就任十年になります。が、その教会長を継ぐ前は川崎市宮前区で小さな表具店を営み、内装職を生業としていました。そのことを知っていたある役員先生が大教会の在勤者が自教会へ戻り、今は空き部屋になっていく部屋のクロス張替えを依頼して下さったのです。

品川支部例会

令和二年9月30日 (水) 11時開始

場所 南泰分教会

(品川区東品川一丁目二九の六)

*コロナ禍にて、開催の有無は20日に決定いたします
電話で又は担当にお尋ねください

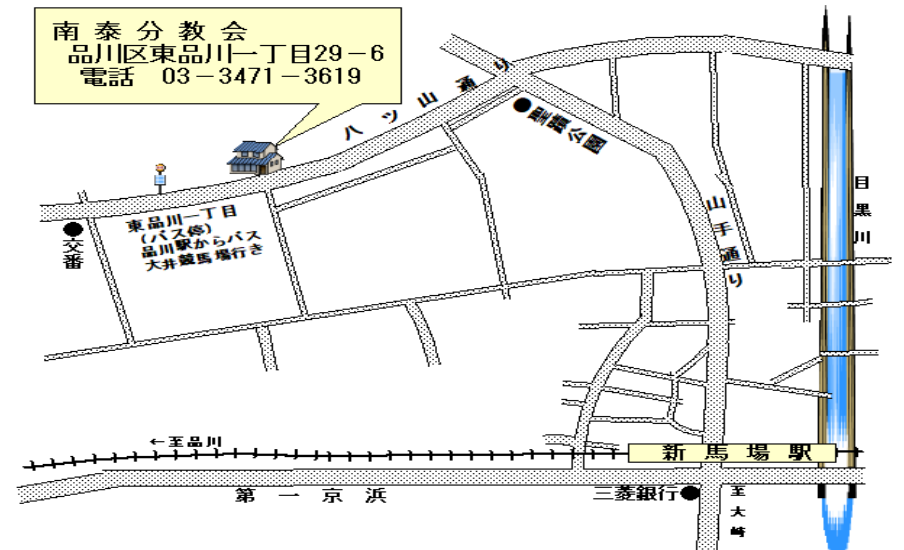
内容 おつとめよろづよ八首 九下り目

東京教区、支部連絡事項

当該教会長宮坂先生 挨拶

昼食の用意頂いてます

*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



ご自分の息子さん夫婦が使わせて頂いていた部屋で、汚れた壁のまま大教会にお返しする訳にはいかないというお気持ちから、クロス張替えが終わって、私はお金は受け取らない、役員先生は仕事として依頼しているの、どうしてでも払う!というように押し問答の末「金麦」一ケースのお礼で落ち着いたのです。以来、大教会等で大きなひのきしんが一段落したころ「金麦」が私の車に積み込まれているようになり、有難いですが、でも今は「金麦」より「のどごし生」なんだけども、その事をきっかけに大教会や詰所、また上級にと、ひのきしんでお使い頂けるようになりました。私の方は普段使わない筋肉を酷使して、身体は悲鳴を上げていても心には喜びが湧いてきます。又、何故か心が沈んで訳の分からない不安感や

焦燥感に捕らわれている様な時でも、ひのきしんをさせて頂くうちに喜び心が溢れ、明るい気持ちになっていきます。生かされていく喜びをかたちに表したものと聞かせ頂くひのきしんですが、私る場合はひのきしんを喜びが湧いてくるのです。この素晴らしいひのきしんの事を、中々こちらを向いて貰えない姪や甥達に少しでも伝えたいなあと思う日々です。

本大崎分教会長 三輪元治

